



經濟
小學

家政要旨

永峰秀樹譯

上

78

544

1



米國ハスケル氏原著
日本永峰秀樹抄譯



經濟 小學
家政要旨 三冊

版權免許

明治九年
八月十九日

甲府常盤町三十八番地

内藤傳右衛門

經濟 小學 家政要旨

緒言

原書ハ一千八百七十五年米國新約克刊行ハ
スケル氏ノ著述ニ係リ一家ノ經濟ヲ記載シ
テ彼邦居家必用ノ諸事ハ餘ス所ナシ然リト
雖モ其書タルヤ頗ル浩漭且ツ東西風ヲ異ニ
スルヲ以テ盡ク此ヲ我國ニ移シテ目今ノ用
ニ供スル能ハス故ニ今中ニ就テ我國ニ必要
欠可ラサル所ニシテ未タ世ニ類書ノ刊行ス
ル者ナク婦女教育ノ欠典ト思ヘル部類ヲ摘

緒言

東京女子學校圖書印

譯シテ此小冊子ト爲シ聊婦女教課ノ一端ニ
供ヘントスル者ナリ

一 割烹ハ婦女ノ重務ナリ一家經濟ノ關スル所
ナリ各人不可不知ノ業ナリ然レモ外國ノ法
ハ今之ヲ譯出スルモ未タ世間普通ノ用トナ
ル能ハス其利益微ナリ又我國ノ法ハ吾輩ノ
贅録ヲ要セス之ヲ家中若クハ近隣ノ熟手ニ
問ハ、得難カラス故ニ今此編ニ省ク

明治九年九月

永峰秀樹識

經濟學 家政要旨目錄

卷之上

- 第一章 總論
- 第二章 家屋家材ヲ購ヒ求ムル時ノ心得
- 第三章 雇人ノ取扱方
- 第四章 料理ノ經濟
- 第五章 洗濯糊熨斗等
- 第六章 賓客ヲ待遇スル心得
- 卷之中
- 第七章 夫ノ心得

第八章 榮養ノ事

第九章 食物ノ心得

卷之下

第十章 食糧ヲ買フ時ノ心得

第十一章 病室

第十二章 家中藥方

第十三章 嬰兒ノ事ニ付テノ心得

第十四章 嬰兒輕症ノ諸患

經濟小學

家政要旨卷之上

米國 ハスケル氏 著述

日本 永峰秀樹 抄譯

第一章 總論

吾等カ祖母ノ時代ニハ婦人ノ善惡ハ重モニ所
帶持ノ巧拙ニテ定メタレハ當今ハ文明モ進ミ
來リタレハ婦人ノ役目モ次第ニ重クナリテ飲
食其外家内日用ノ萬事ヲ取扱フノミニテハ婦
人ノ職掌ヲ盡シタル者ト言フヲ得ス必ス家
族ノ健康ト爽快ト幸福等ニ於テ凡テ之ヲ配意

シ又外人ヲ接遇スルトモ亦婦人ノ職務トナセ
 リ○世ノ中ニ智者識者ト呼ハル、人ニテモ其
 妻ヲ見ルト只同室ニ坐卧スル一劣友ノ如クシ
 婦人ノ性質ハ必ス男子ヨリモ劣レル者ナレハ
 其父兄タル者骨折リテ之ニ學問教育ヲ務メシ
 ムルモ無益ナリト為シ却テ教育備ハリタル婦
 人ヲ嫌フ人モ少ナカラス然レ氏斯論ハ真ノ道
 理ト認メ難シ學問シテ善ク教育ヲ受ケタル婦
 人ハ之ヲシテ諸般ノ職務ヲ司ラシムルニ必ス
 速カニ其業ニ熟鍊シ萬事ニ於テ其家ノ為メニ

利益多カルヘキナリ世ノ人都テ男兒ノ教育ニ
 ハ成人ノ後其地位ニ應シテ身ニハ名譽ヲ得世
 ニハ利益ヲ興サシメント心懸ケサル者ハナシ
 世間ノ人男兒ヲ教育スルニ斯ク慈善ナルニ何
 故ニ女子ヲ教フルニモ齊シク慈善ニシテ後來
 人ノ妻トナリタル時家内ニ取テハ有益幸福ナ
 ル妻トナリ母トナリ又主婦トナリ世間ニ取テ
 ハ温厚愛スヘキノ夫人トナリ又家内家外ノ人
 ヲシテ皆歡喜セシムルカ如ク心ヲ用ヒサルヤ
 子ヲ育ツル此ノ如キ人ハ慈親ニアラサルナリ

婦人ノ教育アル者ハ之ヲ教育ナキ者ニ比スル
 = 其夫ト善ク相親ミ又其子女ヲ訓ヘ導クニモ
 適當ノ方法ヲ得ヘキハ論ナク且ツ所帯ノ持方
 = 至テモ必ス巧ナルヘキナリ然レモ世間ヲ見
 ルニ學問アリ又才智アル婦人ハ婦人ノ本職ヲ
 忘レテ其家事ヲ疎カニスル者モ亦少カラス之
 可嘆^{ナカハ}レキ事ナラスヤ家務ハ婦人ノ本職ニレ
 テ決^レテ疎カニスヘカラサル者ナリ凡ソ家人
 ヲ和樂ニ暮サシメス來客ヲ程善ク遇^{トク}ハサル女
 ハ如何程學問アリ才智アリモ妻ト云ヒ母ト云

フ名目ニ相應セサル者ナリ人ノ妻トナリ人ノ
 母トナリテ其名目ニ適^カハシニハ先ツ人身ノ結
 構、子女ノ養育、食物ノ性質及ヒ料理ノ法ヲモ心
 得サルヘカラス、サテ上ノ道理ヲ心得タル上ニ
 ハ其料理方ニハ只甘美ノミヲ專トセス必ス利
 益アルカ如ク料理セン^トヲ心得ヘシ料理方ノ
 利益トハ飲食ヲ廉價ニ製スル^トハカリニ著目
 セス家人日用ノ食物ハ老人少年健康疾病嗜不
 嗜等ヲ斟酌シ又其職業ニ應シテ心思ヲモ身體
 ヲモ共ニ強壯ナラシムヘキ食物ヲ用フル^トヲ

心懸クヘキト最大切ナリ世間ニハ疎食ハ都テ
 身躰ヲ健康ニシ美食ハ悉ク疾病ヲ醸ス者ト思
 ヘル内政多シ是種ノ内政ノ常言ニ『吾カ祖母ハ
 如此々々ノ粗食糲飯ニテ家人ヲ養フタリ然レ
 氏吾カ兩親ヨリシテ吾等兄弟姉妹ニ至ル迄却
 ヲテ今時ノ少年ヨリモ壯健ナリキ吾カ子女ヲ
 養フモ祖母ノ風ヲ學ビ子女ヲシテ吾カ兩親及
 ヒ兄弟姉妹ノ如ク健康無病ニ生長セシムレハ
 足レリ然ルニ何ノ爲メニ雞卵ノ饅頭ヲ製スル
 カ如キ無益ノ事ニ時ト錢トヲ費ヤスヘケンヤ

是等ノ空事ヲ爲サ、ルモ婦人ノ職業ハ其他ニ
 積テ山ノ如ク存セリト唱フルナリ是等ノ内政
 ハ時ト時代ニハ變革アリテ永久一様ノ者ナラ
 サルヲ知ラサルナリ祖父母ノ時代ニハ豚ノ生
 肉ヤ鹽肉ヤ豆類ヲ以テ最上ノ美味ト悦ビタル
 ト當今我等カ手ヲ盡シタル料理ヲ悦フカ如ク
 ナリシト疑ヒナシ然レ氏其時代ニハ未タ器械
 モ備ハラサレハ手ツカラ薪ヲ伐リ手ツカラ田
 ヲ耕ヘシテ漸ク食糧ヲ得タリキ斯ノ如ク萬事
 困苦ノ中ニ成長シタレハ女子等ハ冬ハ一里餘

リ隔リタル學校ニ通ヒ夏ハ紡績組織ヲ事トシ
 又無鞍馬ヲ走ラセ以テ身體ヲ勞動シ又男兒ハ
 冬ニハ學ヒ夏ニハ耕シ婦人ハ五十里餘リモ馬
 ニ跨リテ身體ヲ勞動シタレハ今ノ世ノ人ノ三
 倍ノ酸素身軀ヲ養フ空氣ハ名其多ヲ吸フタリ
 故ニ豚肉ハ格別ニ要用ナリキ若シ當今ノ人ヲ
 シテ古人ト同シク豚肉ヤ豆ヲ以テ最上ノ食物
 トナシテ身軀ノ運動ノ少ナキトハ尚ホ今ノ如
 クナラシメハ忽チ虚弱トナリ瘰癧狀ノ病人ト
 ナルヘキト必セリ吾々ノ祖母ノ料理ハ吾々ノ

兩親ハ健康強壯ナル身體ニ應ヒテ備ヘタル者
 ナレハ其時代ニテハ實ニ適宜ノ食物ト云フハ
 シ然レモ之ヲ今時ニ用フヘカラサルナリ又世
 間ニハ膩膏物ナラサレハ養分少ナキトテ物毎
 ニ油氣ヤ辛味ヲ用フルモノアレモ是又過チナ
 リ終ニハ身體ヲ害ス

○第二章 家屋材産ヲ購ヒ求ムル事

若キ内政ニ告ク凡ソ家屋ヲ撰フニハ人數ニ應
 スヘシ餘リ大ナル家ニ人數寡キハ厄介ナル者
 ナリ凡ソ座敷部屋等ハ相當ナルヲ可トス客座

敷ハ如何ニモ華美ナレバ其餘ノ部屋ハ都テ粗
 惡不潔ナル等ハ極メテ見苦シキ者ナリ
 家材ヲ購ハントセハ先ツ何程ハ家材ニ費ヤス
 一ヲ得ヘキヤト家道ノ貧富ヲ考ヘ第一ニ臺所
 ノ諸道具ヨリ初メテ次第ニ家内ノ日用品ヲ數
 へ然ル後其他ノ要用品ヲ數へ之ヲ目錄ニシテ
 一々ニ相當ノ直段積リヲ為シ之ヲ總計スヘシ
 總計シタル時金ニ不足ヲ生セハ目錄中ニテ省
 クヘキ品物ヲ見出シテ之ヲ省カン一ヲ要ス就
 中客座敷ノ品物ニ注意シテ省ケハ大概省ケル

者ナリ

第三章 雇人ノ取扱ヒ方

家務ハ出来ル丈ケハ規則ヲ立テ、順序ヲ正シ
 クシ又其規則ハ最モ手都合宜キ様ニ立テ雇人
 等ニモ篤ト其規則ヲ守ラシメ、為スヘキ職業ヲ
 明カニ知ラシムヘシ、儲其使方ハ決シテ怒リ腹
 立タル風ニテ呼出シ事ヲ命スルナカレ、斯クス
 ル片ハ自身ノ位ヲ賤クシテ自然彼等カ尊敬ヲ
 失ナハン雇人等過失アル片之ヲ戒メントセハ
 慈愛ノ心ヲ以テ温和ニ其理ヲ解明シ其言語ハ

夫人ラシク鄭重ナルヘシ都テ雇人ヲ使フニハ
 其心ヲ使ハン_トヲ心懸ケテ其身體ヲ使ハン_ト
 ヲ心懸ケヘカラス其心ヲ使フトハ心ニ悦ンテ
 主婦ノ命ニ従フヲ云フ其身躰ヲ使フトハ其心
 ハ悦フ_ト悦ハサル_ト之ニ管ハラス吾ハ主人ナ
 リト云フ料簡ヲ以テ強ヒテ驅使_トフヲ云フ心ヲ
 使フノ術ヲ得テ雇婢等ヲ心服_トシメ其待遇ハ恰
 モ朋友ノ如クスル_トハ大抵ノ雇人ハ忠心ヲ
 以テ命令ヲ奉シ必ス利息ヲ加ヘテ主婦ノ慈愛
 ニ報フル者ナリ主婦能ク目下ノ者ニ其職務_ス為

ヘキ_ト事ヲ盡シテモ不平ヲ鳴ラス雇人アルヲ見
 ケノ事_トル_ト甚稀ナリ慈愛ヲ以テ使ハサル雇人ハ決シ
 テ信任スヘキ者トナラス事ヲ命シタルニ其働
 キ方意ニ稱ハス之ヲ罵詈セサレハ働カサル_ト
 アラハ初ヨリ之ヲ命セサルヘシ是レ能ク注意
 スヘキ事ナリ雇婢等ノ過失ハ親切ニ指示シテ
 教誨スヘキ事モ要件ナレ_ト亦其善キ處ヲモ常
 ニ目ヲ付ケ例ヘハ下婢ノ名ヲ呼ビ_ト板間カ大分
 奇麗ニナリタリト_ト賞メ又ハ_ト臺所カ能ク片付_ト
 テ居ル_トトカ一二語ノ譽言アレハ下婢等ハ其働

キノ主婦ノ目ニ留リタルヲ悦ンテ更ニ座敷或
 ハ門庭マテモ奇麗ニ掃除スル者ナリ是レ人ノ
 情ナリ又器物等ヲ破壊シタル時モ命令ニ背キ
 タルニアラスンハ穩カニ破レタル物ハ詮方ナ
 レ只以後氣ヲ付ケン^トヲ欲ス^ト穩カニ云ヘハ
 以後萬事ニ注意スル者ナリ又用事ヲ命レタル
 片ニ氣ニ逆ヘハトテ決シテ怒リテ其用事ヲ止
 メサスル^ト勿ル可シキツト必然惡名ヲ傳フル者ナリ
 雇婢ノ中ニハ怒リ易キ性質アリテ無禮ノ妄言
 ヲ吐ク者アリ然ル時ニハ其言ヲ聞カスレテ直

タニ目前ヲ去ラシムヘシ、左スレハ忽チ怒氣收
 マリ大抵自カラ罪ヲ悔ヒ赦免ヲ請フモノナリ
 若シ赦免ヲ請ハサル片ニハ忘レタルカ如ク其
 儘ニ打捨テ置キ後日萬事手落ナク臺所ノ事モ
 平日ヨリ手際ヨキ時ヲ待テテ此事ヲ言ヒ出シ
 若シ先日ノ事實ニ其方ノ氣ニ合ハサルナラハ
 親シク使フ能ハス望マシキ^トナラサレ^レ暇ヲ
 出タサ、ルヘカラス^ト云フヘシ大抵其罪ヲ悔
 ヒテ慎シム者ナリ吾カ上ニ掲ケタル法ニ從フ
 テ雇人ヲ使ハ、雇人ハ能ク働クヘキ^ト必セリ

家人ヲ善ク支配センニハ先ツ自身ヲ支配セヨ
 ト云フ規則ヲ記臆スヘシ此規則ニ從フ者ハ家
 人ヲ支配スルニ困難ナル事ナカラシ
 家内ノ事ハ都テ規則アルヘシ家内ノ親睦ヲ保
 ツト保タサルハ規則ノ有無ニ関ハレルト少ナ
 カラス食事ハ制限ヲ定メ同シ食物ニテモ種々
 ノ法ヲ用井テ割烹シ食器等ハ必ス清潔ニスヘ
 シ斯ク萬事ニ注意シ家人ノ心ヲ樂シマシムル
 者ハ食料ニハ少シ許リノ失費多キモ家人ハ悅
 シテ職業ヲ務メ又其身體ハ壯健ナルヘキヲ以

テ其利益ハ甚ク大ナル者ナリ能ク心懸クヘキ
 事ナリ
 又一週間ノ中ニ日ヲ定メテ月曜日ニハ洗濯シ
 火曜日ニハ食糧ヲ製シ水曜日ニハ大掃除シ木
 曜日ニハ鈷鋤ヲ當テ金曜日ニハ衣服等ヲ修繕
 土曜日ニハ食糧ヲ製スル等ノ如ク日々ノ課業
 ヲ定メ置ケハ必ス手廻リモ能ク事ヲ抄取ルモ
 ノニシテ且ツ雇婢ヲ使フニモ使ヒ易キモノナ
 リ
 家人ニ各一ツ宛ノ布囊ヲ與ヘ置キ汚レ垢ツキ

家政要書
 卷之十一

タル者ヲ是レニ入レ置カシムヘシ
 凡ソ主婦タル者ハ決斷ニ善ク温和ニシテ氣力
 アリ又諸事ニ法則アリテ巧利ナルヘキヲ要シ
 兼テ家務ニ関ハル事物ハ何事モ熟練セサル事
 ナク加之雜用帳ノ付方ヲモ會得シ家務ノ章程
 ヲ都合ヨク立テ、雇婢等ヲ使役スルニ前後混
 雜スル事モナク又周ネク世間ノ交際ノ方法ヲ
 モ理會スヘキヲ要ス大家ニハ婢女數多ヲ召使
 フアリ、タトヒ其婢女ノ數ハ幾何アルモ之ヲ管
 理スルノ任ハ其家ノ主婦ニ在リ故ニ主婦ハ常

ニ心ヲ留メテ婢女ノ勤惰熟不熟巧拙等ヲ察シ
 冗費、有無ヲ查察スヘキ者ナリ又主婦ハ飲食
 衣服ヲ管轄シ食糧ヲ量リテ炊婢ニ與ヘ其冗費
 ナギヤ否ヲ查察シ衣服ノ破綻ヲ檢シ斑汚ヲ去
 リ家具ヲ點檢シ銀器ハ盡ク親ラ之ヲ收藏シ又
 割烹ノ事ヲ主リ夏秋ノ菓實ヲ蓄藏シテ冬春ノ
 用トナシ漬物菓子類ヲ家中ニ備ヘ膳部ノ組立
 適當ニシテ食ニ常時アリテ常ニ違ハサル様心
 付ケ又父夫ノ命スル事アレハ喜ンテ之ニ應シ
 毫末モ煩勞ヲ厭フヲナク都テ家人ヲ怡悦セシ

ムルノ事ヲ專一ト心懸クヘキ者ナリ又衆婢ヲ使フニハ固ヨリ温和ナルヘキナレ氏寛ニ過キテ放縦ナラシムルトナク必ス嚴密ニシテ意アリテ怠惰ナルカ又ハ惡事アル片ハ必ス之ヲ督責シテ敢テ之ヲ放棄シ置カサラントヲ要ス又衆婢ヲ取扱フニ愛憎ナク盡ク平等ニ親切ナルヘシ然リ而シテ夫々ニ職務ヲ授ケ各人ノ職務ニ於テハ必ス怠惰ナカラシムヘキニ注意シ其怠惰ナル者アレハ敢テ之ヲ看過シテ問サレトナカレ都テ僕婢ヲ使フニハ怒ト云フトヲ心掛

クヘシ怒トハ思遣リトテ人ヲ使フ片己カ人ニ使ハル、時ヲ思ヒ其主人トスル人ニ希望スヘキ所ノ者ヲ想像シテ僕婢等ニ其希望ヲ得セシムヘキ様ニ之ヲ使役スルトナリ是レ最肝要ノ事ナリ

傳婢 幼少ノ者ニ小兒ヲ托スヘカラス傳婢トナスヘキ者ハ必ス其性質行狀身體迄ヲ善ク吟味スヘシ目今世人ノ傳婢ヲ撰フ法ハ甚タ宜シカラス世人傳婢ヲ撰フニ疎ニ幼年ノ者ヲ傳婢トスルヨリシテ其子ノ生涯ヲ錯マル者甚多シ

傳婢タルヘキニ適當ノ婦人ハ先ツ普通ノ理義ニ通シ其心ハ慈仁ナルヘク其性質ハ決斷アルヘクシテ殘酷ナラス其容貌ハ愛スヘク眼ハ常人ノ如ク談話ニ澁滯ナク才智アリテ信任スヘク其身體ハ壯健ナルヘシ別シテ小兒ト卧室ヲ共ニスルノ傳婢ハ弱質ノ者ヲ避クヘシ加之其人ハ裁縫ニ長シ其身體ハ美ニシテ行坐法アリ不行儀ナラサル者ニシテ一個完全ノ傳婢ヲ得ヘキナリ偕テ傳婢ノ職務ハ小兒ノ沐浴衣食ヲ主リ其遊戲ヲ共ニシ快譚ヲ以テ之ヲ樂シマシ

メ乘馬歩行モ相伴ナシ行住坐立共ニ必ス相結ヒ相連ナルヘキニ在リ賢コキ傳婢ハ小兒ヲシテ激怒ヲ起サシメサル事ニ注意シ平常快意ノ時ニ於テ其宜シク為スヘキ事ト宜シク為スヘカラサル事トヲ會得セシム是ヲ以テ打撲ヲ用ヒス小兒ヲシテ其言ニ順從ナラシメテ放恣ニ到ラシメス凡ソ小兒ヲシテ其我意ヲ遂ケシムルハ甚タ害アル者ナリ若シ同一ノ傳婢ヲシテ分娩ヨリ三年間モ間斷ナク伴ナハシムレハ其少兒ノ性質ハ傳婢ノ好ム處ニ應シテ善惡トナ

ルヘキナリ故ニ傳婢若シ怒リ易キカ不信詐偽ナルカ又ハ淫祠浮鬼ニ迷フ者ナル片ハ少兒ハ之ニ傳染シテ其性質ヲ壞敗セシ世間ノ人嬰孩ノ時傳婢ヨリ傳染シタル迷夢ハ終身醒悟スル事ナク身心ニ禍害ヲ受ル者其數ヲ知ラス

○傳婢ハ其保衛スル少兒ノ年齢ノ強弱ニ應シテ其食糧ヲ加減セシトヲ要ス生齒ノ時ニハ恒ニ其腸ノ容體ヲ探リ感冒ニハ其呼吸ヲ注意シ若シ又傳染毒流行スル片ニハ其徵候ノ有無ヲ推量スル等ノ如キ慈愛心ヨリシテ善慈ノ傳婢

ハ種々少兒ノ危害トナルヘキ者ヲ避逃防護スルト少ナカラス少兒ノ養育ハ更ニ其法ヲ後ニ示ス

第四章 料理ノ經濟

料理ノ經濟ハ家中經濟ノ大切ナル者ナリ但シ當今ニテハ只腹ニ充テ飢ヲ癒スノミニテハ料理ノ法ニ叶フタル者トセス必ス其躰裁ヲモ飾ルヘキト一般ノ風俗ナリ風俗ニ背クトハ世ハ中ニ住ム人ノ戒ムヘキ事ナリ故ニ膳部ノ位置等ニモ注意スヘシ又顔色悅ハシカルヘキトハ實ニ要件ナリ良人ヤ嚴君カ職業ニ骨折リテ歸

リ來リ膳ニ向ヒタル片ニハ必ス其顔ハ喜ハレ
 ク其容ハ和ラキタル妻アリ又嬉々トシテ清潔
 ノ衣ヲ著シタル子女アリテ食物モ手際ニ料理
 セルナラハ其食料ハ元來美物ナラサルモ悦シ
 テ之ヲ食スルコト美味珍膳ノ饗應ニ優レル思ヒ
 アラニ然ルニ家裏ニ入り來レハ室内ハ亂雜ニ
 妻ハ料理ニ勞セリト不平ノ體アリ子女等カ髮
 ハ亂レ顔色ハ憂ヒアリ見ル事毎ニ不快ナル片
 ニハ嚴君良人ノ氣ヲ損シ忽チ大聲ヲ發シテ膳
 部ヲ退ケ去ラシメ或ハ他事ヲ以テ呵責サルヘ

キコ取テ怪ムニ足ラサルナリ世間家内ノ口舌
 ハ多ク食時ニ起レリ是ノ過チバ内政ニ歸スヘ
 ヘキ者多シ
 若シ備ヘタル食物父夫ノ口ニ適ハス改メテ料
 理ヲ命スルコトアラハ毫モ不平ノ氣色ナク成フ
 ナラハ嬉々然ト從事スヘシ然レハ忽チ父夫ノ
 氣分モ己カ氣分ト共ニ和ラキ舉家笑聲ヲ聞ク
 ニ至ラン世間ニハ或ハ是ノ如キ事ヲ為ルハ正
 シキ道ナラスト考フル者モアレ氏ハスケル此
 ノ記ハ然リトセス凡ソ内政タル者ノ目的ハ家

喜色ノ経濟

内ヲ和樂ナラシメ子女ニ利益アラシムルニア
 レハ廟堂ノ官吏カ國家ノ事務ヲ取扱フカ如ク
 一定不變ノ者ナラス故ニ豪富ノ家ナラスレテ
 飲食ニ不平ナカラシメントスルニハ其内政々
 ル人ハ喜色ノ經濟ト云フ者ヲ能ク記憶スヘシ
 若キ内政ニハ料理ノ仕損シ仕事ノ過失ハ日々
 ニ必ス免カレサル者ナリ其仕損シ過失等アル
 モ父夫ノ愠色ヲ牽起サ、ルハ偏ヘニ喜色ノ一
 事ニ在ルナリ家道ノ有様ヲ善クスルニハ家内
 平和ナラサレハ能ハス又事ヲ為スニ心意平温

ニシテ喜色アル内政ハ次第ニ萬事ニ巧者トナ
 リ終ニハ家内ヲ和樂ニシ世間ニモ譽ラル、ノ
 母妻トナルヘキ事疑ヒナシ凡ソ人々ノ希望ハ
 家事ニ在リ家事ヲ支配スルハ母妻ノ職ナリ故
 ニ若シ夫ノ光景不幸ナラントスルハ格別
 ニ其妻タルモノハ能ク和氣ヲ以テ萬事ヲ處置
 スヘシ人不幸ニ遇ヒ氣力挫ケタル時ニモ妻ノ
 為メニ其氣力ヲ牽起サル、事少ナカラス夫婦
 ノ世界ハ甚々廣シ故ニ眞實ノ心ヲ以テ能ク眼
 ヲ將來ニ屬クヘシ後日ノ禍福ニ關セス唯己カ

便利ヲノミ圖ル者ハ妻ニアラス一片ノ麵包一
 碗ノ飯モ必ス之ヲ家内ニ利益アル様ニ用ヒン
 事ヲ心懸クヘシ吾々多クノ家ヲ見ルニ小人數
 ノ家ニテハ一度ノ食糧ニモ當ツヘキ食糧ヲ豚
 桶ノ中ニ入レ置キタルモノ少ナカラス世ノ諺
 ニ好シテ費ヤス者ハ太ク窮スト云ヘリ小モ積
 レハ大トナリ萬圓ノ黄金モ素ト一錢ノ集マリ
 タル者ナリ又凡ソ多量ノ失費ニハ誰人モ心ヲ
 留ムル者ナレハ左程大損ヲ為ス者稀ナレハ少
 シ許リノ費ヲハ關ハヌ者多シ故ニ少費ヲ大切

ニ心懸クヘキナリ少費ハ日々時々ニ起ル者ナ
 レハ却ツテ積リ積リテ大費トナルナリ然レハ
 儉約スレハトテ未熟失調ノ如キ身體ノ健康ヲ
 害スル食物等ハ一切食フヘカラス是等ハ身軀
 ヲ少金ト同視スルノ愚者ニシテ不經濟ノ最大
 ナル者ナリ是等ノ處ヲ能ク辨フヘシ未熟失調
 等ノ失ハ内政ノ不注意ヨリ生スル者ナレハ以
 来ニ再ヒセサル様能ク注意スヘキナリ再ヒ過
 タサレハ可ナリ既ニ料理仕損シタル食料ハ速
 カニ之ヲ捨テ直チニ新食ヲ製スヘシ出来損シ

タル時直チニ製スレハ必ス善ク出来ル者ナリ
 別シテ厨婢ニ料理ヲ命スル時ニハ此法ヲ用井
 テ可ナリ厨婢等ハ度々ノ煩勞ヲ恐レテ以來ハ
 必ス注意スル者ナリ又厨婢等ハ有用ニ向クハ
 キ品物ヲモ空シク捨ツルト多ケレハ能ク注意
 シテ浪費ヲ省クトヲ心懸クヘシ其一ニヲ舉ク
 レハ明朝ノ羨トナスハキ殘肉ヲ捨ル事野菜ノ
 餘レルヲ捨ル事石礮ヲ水ニ浸シ置キ或ハ入用
 コリモ多分ノ石礮水ヲ製スル事拭巾ヲ捨テ置
 キテ箄ニ嚼破ラル、事桶類ヲ日ニ當テ、破落

感佩

々々ニスル事鐵類ヲ銹サスル事錫類ヲ濕リタ
 ルマ、ニ捨置ク事洗濯シタル衣服ノ乾キ上リ
 タルニ猶ホ乾網ニ挿シ置キ風ニ揉レテ破裂摩
 耗スル事冬日瓶中ニ水ヲ貯ヘ置キ其水凍リテ
 瓶ノ破裂スル事等ノ類此外千百ヲ舉ルモ尚ホ
 數ヘ盡シ難シ人ノ妻女タル者ハ能ク注意スヘ
 キ事ナリ妙年不練熟ニシテ注意ナキ内政ハ其
 良人ノ勉強辛苦シテ得ル所ノ金錢ヲ浪費シテ
 惜ムトヲ知ラサル者實ニ夥シ一家ノ經濟ニ取
 リテハ嘆息ノ至リナリ凡ソ善良ノ内政タル人

ハ能ク家中ノ小事ニモ注意シ衣服飲食等ノ冗
 費ヲ省カン^トニ心ヲ用フル者ナリ然ラサレハ
 善良ノ内政タル^トヲ得ス家中ノ小事ハ日々ニ
 シテ其數多シ故ニ一事ノ費ハ些少ナレ^モ百ト
 ナリ千ト高^{カサ}メハ其費實ニ驚クヘキノ巨額トナ
 ルナリ吾人ノ祖母言ヘル^トアリ曰ク夫ノ鋤ヲ
 以テ投入ル^ハノ支給ハ妻ノ匙ヲ以テ投出スノ
 費用ニ當ツル能ハスト此言實ニ名言ナリ夫ハ
 外ニアリ勉業シテ家人ヲ支給スルニ餘ルヘキ
 ハ金ヲ得ルモ其妻ハ内ニ在リテ萬事ニ浪費ス

レハ貧ナラサルヲ欲スルモ得ヘカラスナリ
 吾カ上ニ小事ヲノミ舉ゲタル者ハ數十年來ノ
 經驗ニ因リ家中ノ經濟ニハ小事ヲ慎ムヘキ^ト
 ノ最モ大切ナルヲ覺レル所アレハナリ凡ソ妻
 ノ家道ヲ裨補スル者ハ家中ノ入費ヲ輕減シ夫
 ノ辛苦ヲ慰ムルノ外ニ道ナシタトヒ他ニ裨補
 スルノ法アルモ妻タル者ハ必ス家中ノ經濟ハ
 務メサルヘカラス以レテ怠ル者ハ真ノ内政ニ
 非サルナリ然^レモ費ヲ省クトテ必用ノ事ヲモ為
 サハル者ハ是ヲ吝嗇ト云フ甚タ惡キ事ナリ經

濟トハ有用ノ事ヲ為スニ巧者ニシテ浪費ナク
 他人ノ多金ヲ以テ為ストヲハ己レ少費ニテ之
 ヲ成遂クヘキ事ヲ言フナリ決シテ飢タル腹ヲ
 抱ヘ為スヘキ事ヲモ為サスシテ妄リニ金ヲ儲
 フルヲ謂フニ非ス人ノ妻タル者ハ第一ニ家
 内ノ歡樂ナラントヲ務ムレハ其餘ノ職務モ隨
 テ成遂クヘキナリ前ニモ言フ如ク家人相疾ニ
 テ其家ニ幸福多キ者ハ未タ之レ有ラサルナリ
 然レモ一時家内歡樂ナレハトテ之ヲ容易キ事
 ト思ヒ過ツトナカレ婦人ノ務ハ毎日ニ起ル者

ナレハ一日片時モ等閑ニスヘキ者ナラス大切
 ノ一事ヲ等閑ニスレハ遂ヒニ之ヲ回復スル能
 ハサルハ尚ホ刺繡針ノ如シ刺繡ニテ大切ノ一
 針ヲ過テハ全工ヲ空フスル者ナリ時トシテハ
 夫人ノ厨ニ入りテ料理スルニ美服ヲ穿テル者
 アルヲ見ルト少ナカラス美服ヲ穿ツ片ハ為ル
 事モ輕快ナラス又衣服モ忽チ汚染スヘケレハ
 廉價ノ粗服ヲ買フテ仕事著ト為サントコソ望
 マシケレ食事ノ給仕ヲスル時ニハ暫時ナリモ
 大前垂ヲ附ル方宜シ熟練ノ老婦カ七日餘リ著

タル仕事者ハ未熟ノ新婦カ半時間着タルヨリ
 モ猶ホ清潔ナリ凡ソ新婦タル者ハ萬事ニ精巧
 ナラントテ欲シテ甚タ心配シ衆人ニ向フテ其
 方法ヲ問フ者ナリ然レモ教示スル人ニモ熟不
 熟アリ又エト拙トアリ故ニ其法ヲ問フタルカ
 為メニ却ツテ過失ヲ引起ス者ナキヲ保タス故
 ニ新婦タル者ハ備忘録ヲ製シ過失アル度毎ニ
 之ヲ登記スヘシ左スレハ同シ過失ヲ再ヒスル
 ハ憂ヒナカルヘシ食物類ヲ製シタル片其出来
 上リ良ラハ又其方法ヲ精ク備忘録ニ登記シ後

日ノ用ト為スヘシ内政ノ事タル頗フル繁多ナ
 レハ唯記臆ニノミ任セ置クトハ萬全ノ策ニア
 ラス割烹ノ事ノ容易ナラサルハ日々ノ味ニ種
 々ノ差異アルヲ見テモ知ルヘキナリ

第五章 洗濯糊熨斗

凡ソ布帛衣裳等ヲ洗濯セントセハ先ツ前々日
 ノ夕方ニ強石礮水ニ浸スヘシ若シ品物ニ精粗
 アラハ之ヲ別チテ盥ヲ異ニシ又暖天ニハ石礮
 水腐敗スルノ憂アレハ洗濯セントスル日ノ前
 夜ニ浸シ置クヘシ蒲團ノ上敷ハ每週一週ハ七
 日ニ浸シ置クヘシ

其順序ハ日月火水木金土ナ一度取換フヘシ凡
リ是ヲ七曜日ト云フナリ
ソ洗濯ニハ兩水ヲ用フルヲ良トス強石礮水ヲ
製スルノ法ハ兩水六升毎ニ細末ノサルソトダ
混合物アル三升ヲ和シ又凡ソ水三斗毎ニトル
炭酸曹達三升八分ヲ投ス其水ノ分量ハ洗濯
ペンチン精三升八分ヲ投ス其水ノ分量ハ洗濯
物ノ多少ニ隨フテ加減スヘシ儲テ水ノ用意出
来タル片食卓布上敷等ヲ一塊トシテ之ヲ浸シ
釜中ニ煮沸シ摩擦スルトナク唯時々尖ノ滑カ
ナル棍ニテ下ニ推付ケ煮沸スルト半時餘リニ
シテ之ヲ取出シ兩水或ハ清水ニテ水ヲ換ヘテ

三度濯キ三度目ニハ青色ノ染料少許ヲ入レ青
色ノ水ニテ洗フヘシ食卓布等ニ菓物ノ斑汚ア
ラハ石礮水ニ浸ス前ニ斑汚ノ處ニ沸湯ヲ射注
スヘシ大概ハ之ニテ斑汚ヲ去ルヘキナリ蒲團
敷及ヒ机布ハ皆右ノリ子ニ類釜ノ中ニ在ル中
白ノリ子洋服ノ袖口ト胸及ヒ其他ノ衣服ノ地
ニ觸レ肌ニ付キ汚レタル處ヲ見置キ前ノリ子
ニテ釜ヨリ引上ケタル後他ノ石礮水ニテ一々
洗ヒ儲テ前ノ石礮水ニ少許ノ曹達ヲ加ヘテ上
ノ諸品ヲ煮次ニ粗品ヲ煮其次ニ手巾類ヲ煮ル

へし其手續ハ前ト同シ精緻ノ刺繡物類ハ洗濯
 スル時ニ只之ヲ囊ニ入レテ煮テ濯クノミニス
 へし決シテ之ヲ洗板ノ上ニ置キ刷毛ニテ摩擦
 シ又ハ揉洗スヘカラス又日乾風乾スル片ニモ
 既ニ乾キタラハ直チニ之ヲ取收ムヘシ其儘ニ
 ナシ置ケハ日ノ為メニ焦カサレ風ノ為メニ蕩
 揺サレテ摩耗スヘキノ度ハ使用シテ摩耗スル
 ヨリ十倍モ速カナリ以上ニ示ス處ハ吾カ十餘
 年来ノ經驗ニシテ衣服ニ傷破少ナク時間モ少
 ナク勞動モ小ニ又石礮ヲ省クノ益アリ猶ホ新

内政ニ告クヘキコアリ總テ熱湯ニテ洗濯スル
 ハ良カラス湯ノ温度ハ血温ナレハ汚斑ヲ去ル
 ニ十分ナリ
 襯衣及ヒ襟ニ糊ヲ附ルニハ一枚ノ襯衣一條ノ
 襟ニ良キスターチ葛類一匁強ヲ取り此スターチ
 チヲ濕ス丈ケノ水ヲ漑キ塊リノナキ様丁寧ニ
 磨碎シタル後水少許ヲ入レ善ク攪和シ之ニ豆
 大ノ白蠟一塊トスターチノ十二分一可リノ食
 鹽ヲ和シ之ヲ沸湯中ニ注キ入レ手ヲ止メス靜
 カニ攪動シ焦サル様ニレ煮沸スルヲ十五分間

家政要書

卷之五

ニシテ火ヨリ下^{オロ}シ其水猶ホ熱キ中ニ上ニ浮フ汚物ヲ擦^ヒ去リ布ニテ漉過スヘシ其法ハ糊水猶中ニ在リ外ニ出サル片ニ漉布ヲ冷水ニ入レ水ノ未タ熱ヲ受サル前ニ搾^シレハ容易ニ為得ヘシスター^トチト水トノ分量ハ糊ノ強弱ノ好^ミニ應^シテ加減スヘケレハ別ニ一定ノ規則ヲ示ス能ハス○偕テ糊ヲ塗敷スルノ法ハ^レヤツ胸及ヒ襟布ヲ熱湯ニ浸^シ之ヲ絞リテ水氣ヲ去リ濕氣ノ未タ去リ盡サル中ニ糊ヲ塗敷^シ善ク摩擦^シ糊ヲシテ厚薄ノ處ナク平均ニ布目ニ入ラ

シヌ乾ケル布ニ包^ミテ之ヲ絞リ外面ニ殘^レル糊ハ之ヲ平ラニ敷キ乾布ニテ摩擦^シ緊^キシク卷キテ二三時間放置^シ然^レテ後チニ熨斗ヲ懸^ルナリ右ノ如ク糊^シタル後暖天ナラハ必ス三時間内ニ熨斗ヲ懸クヘシ然^ラサレハ酸氣ヲ生^シ品物ノ為ニモ身體ノ為ニモ良カラス但^シ寒天ナラハ一夜ヲ隔ルモ害ナシ黒色ノ綿布類ノ糊ニハ亞^ア刺^ラ比亞^ヒ護^ゴ謨^ム又ハ米糊ヲ用^フルモ良^シ凡^テ色物ヲ洗^フニハ米水ヲ用^ヒ石礮ヲ用^井サ

ル方ヨロシ若シ油污アラハ卵黄ニテ洗ヒ去リ
 之ヲ石礮水ニテ濯キ卒リニ水二外タテ五合毎ニ緑
 礮ノ浸液四十滴ヲ和シタル者ニ浸シテ絞リ裏
 ヲ表ニシ日光ニ當テス風ヲ以テ陰乾シ乾キタ
 ル時ハ直チニ取り入レ取り入レタル後二時ヲ
 經サル中ニ熨斗ヲ裏ヨリ懸クヘシ表ヨリカク
 ルハ不可ナリ

アラ子ル類ノ洗濯ニハ微温湯ヲ用井成丈ケ石
 礮ヲ用井スニ洗フヘシ其洗濯ニ石礮ヲ用井ル
 アラハ透明石礮カ又ハアムモニアヲ用フヘシ

アラ子ル類ハ洗フニモ濯クニモ微温湯ヲ用フ
 ヘシ凡ソ寒水熱湯ヲ用フレハ多ク收缩スル者
 ナリ○白ノ新アラ子ルハ必ス穀膠ヲ塗リアル
 者ナレハ洗濯スルニハ一夜间浸シ置クヘシ否
 サレハ斑點ヲ生ス○又アラ子ルハ板上ニ洗フ
 ヨリモ手ニテ洗ヘハ收缩スルコト少ナレ○又色
 アラ子ルナラハ陰乾ニシテ乾ケルキ重キ熨斗
 ニテ静カニ水氣ヲ取り去ルヘシ○凡テ紋形刺
 繡等アラハ熨斗ハ裏面ヨリ當ツヘシ
 色アル絹布ヲ洗濯スルニハ先ツ染工ノ用井タ

ル染料ヲ探リ知リテ成丈ケ其染料ト同性ノ品
 ヲ用井テ洗濯スルト專要ナリ故ニ紅絹ニハ鹽
 酸錫ヲ用井テ洗ヒ綠碧濃紅丹色ノ絹及ヒ薄黃
 絹ニハ綠礬油ヲ用井テ洗フヘシ若シ甚タ汚レ
 タラハ唯糠水小麥ヲ用井テ洗ヒ其色ニ應シ同
 色ノ水ニテ洗濯ヒスヘシ○今絹布洗濯ノ順序
 ヲ左ニ示サン先ツ第一ニ全部ヲ吟味シ油污ア
 ラハ卵黃ニテ摩擦シ之ヲ乾カシ既ニ乾キタル
 時ニ清潔ノホワイトボード菩提樹ノ板上ニ平
 ニ廣ケ横堅別々ニ手早ク海綿若クハ羅紗ニテ

洗ヒ同色水ニテ濯クヘシ決レテ之ヲ絞ルナカ
 レ若シ汚レ甚レケレハ再度ノ洗濯ヲ要ス再度
 洗濯スルニハ初メニ濯キタル後卵黃ヲ塗リテ
 摩擦シ卵黃未タ乾カサルニ洗フヲ良トス俎テ
 此布ヲ乾カスニハ陰乾ニシ濯キ終ル片ニアラ
 ビヤゴム少許ヲ和スレハ更ニ美色ヲ生ス○絹
 布ニハ熱キ熨斗ハ宜シカラス
 ブラシケツトヲ洗フニハ石礬水ヲ用ヒテ能ク
 洗ヒ汚穢甚レクハ二三回水ヲ換ヘテ清水ニテ
 濯キ洗濯キニハ上品ノ石礬少許ヲ加フヘシ凡

テ毛織物ハ洗フニモ濯クニモ熱湯ヲ用フルナ
 カルヘシ濯キ終ラハ能ク絞リ皺ヤ縛ヲ能ク延
 レテ速カニ乾カレムル様手當ヲナシ乾キタラ
 ハ適度ノ熨斗ニテ毛並ノ揃フマテ頻リニ推シ
 摩ツヘシ

第六章 賓客ヲ待遇スル心得

凡ソ賓客ヲ招待スルコトアラハ己カ貧富ニ應シ
 吾カ身上ハ如此々ナリ故ニ其饗應モ如此ニ
 シテ適當ナリト預メ算定シ決シテ己カ家道不
 相當ノ奢華ヲ為シテ己ヨリモ富充シタル者ト

均シカラレメンコトヲ欲スルナカレ是レ却ツテ
 賓客ノ心ヲ煩ハシマル事タリ
 饗應ノ用意ハ成丈ケ手早ク為レ其容貌ハ愉々
 然トシテ決シテ煩勞疲憊ノ状ヲ賓客ニ見セレ
 メサル様心懸ケ若シ又不意ノ難事生スルアル
 モ決シテ之ヲ賓客ノ前ニ説カス常ニ其容貌ハ
 和樂ナルヘシ主人ノ容貌和樂ナレハ賓客モ亦
 和樂ナラン賓客ハ飲食ノ珍羞ナランヨリハ寧
 ロ家人ノ待遇ノ善ナルヲ悦フ者ナリ○又衣服
 モ華美ナラサルヘシ家人ノ衣服華美ナレハ賓

客ヲレテ自ラ其服ノ疎ナルヲ羞チレメ必カ為
 メ大ニ不樂ノ念ヲ懷クナリ○又衆客一時ニ
 来ルアラハ人々ニ少レ宛談話レ決レテ其中ノ
 一人ヲ換ミテ之ト長談スルナカレ談話ノ相
 手トナラサル客ハ不快ヲ懷ク者ナリ其談話中
 ハ格別ニ態度温靜ニレテ不行儀ナカルヘレ○
 若シ人ヲ招キタル時招カサル客ヲ同道ニテ來
 アラハ此客ニハ格別ニ敬禮歡容ヲ盡スヘレ
 凡ソ不意ノ客來ルアラハ先ツ喜悅ノ状ヲ示ス
 ヘシ然レモ喧鬧囂々レキ態ヲ為スナカレ若

新飲食等ニ缺乏ナクハ成丈ケ客來ノ為メ新々
 ニ割烹スル事ヲ避クヘレ東奔西走囂々レキ片
 ハ己カ來レル為メニ斯ク煩勞ヲ醸サレムルヨ
 トテ賓客ノ心ヲ傷マレメ速カニ辞レ去ラン
 ヲ欲レ善ク待遇セントレテ却ツテ待遇ノ惡レ
 キニ當ル者ナリ故ニ既備品ニテ饗應レ成丈ケ
 同席ニ相伴レ來客ヲレテ獨座セレメサル様心
 懸クヘレ○凡ソ其朋友ノ訪問スル者ハ談話面
 會ヲ悦ンテ來ル者ト見做レ對面レテ談話スル
 ヲ悦ヒ飲食ヲ貪ホルカ為メニ來ル者ナラスト

思フヘシ然ルニ若シ賓客ヲハ兀然ト客廳ニ獨
 坐セシメテ家人ハ專ラ其飲食ニ奔走スル片ハ
 其賓客ハ自家ニ在テハ美食珍膳ヲ食フコトヲ得
 ヘカラサルカ故ニ訪問スル者ト見做スニ當リ
 大イニ失禮ナルコトナリ○朋友遠方ヨリ來ル時
 ニハ格別ニ注意シ朋友ヲシテ來訪ノ時節悪ク
 却ツテ家内ノ煩勞ヲ致セリト心中ニ其來訪セ
 ルヲ自ラ悔マシメサル様ニ待遇シ又主婦ハ其
 身不幸ニシテ貧苦ニ迫リ膳部ハ疎惡ニ室房ハ
 陋狹ナル等ハコトヲ訴ヘ是ヲ以テ其待遇ノ意ノ

如クナラサルヲ謝スル等ノ事アルナカレ唯家
 中ニ美室アラハ之ヲ與ヘ若シ之レナキモ決シ
 テ之カ為メニ貧窶ヲ謝スルコトナク來客ヲシテ
 家人盡ク安泰ニ暮シ人々自足自樂ノ狀アルヲ
 示スコト肝要ナリ○若シ家中萬事足備シ世間又
 ト有間敷饗應ヲ來客ニ與フル事ヲ得ルモ浪リ
 ニ己カ幸福ヲ誇リ朋友ニ驕レルノ容貌語氣ア
 リテ朋友ノ意ヲ損スル事ナキ様注意シ朋友固
 ヨリ豪華ニ暮シ己カ與フル饗應ハ其日常口ニ
 慣ル、ノ膳部ナリト思、ル躰アラシ事モ亦肝

要ナリ○凡ッ速客ノ到着セシモノニハ必ス旅途ノ鬱氣ヲ散セシムルノ物料ヲ備ヘンコトヲ心懸ケ一應ノ寒暄アイサツモスミ荷物行李等モ到着セハ直チニ客室ニ請レ必要ノ品ハ盡ク具備シテ不都合ナカラシムヘシ盥ニ水ハアレヒ手拭ナク手拭アレヒ水ナキ等ノ不都合ナク萬事客来前既ニ預備シアリタルカ如クスヘシ凡ッ旅客ハ敢テ美味ヲ欲セス其身體安逸ニシテ家人ノ待遇善ケレハ素飯ニテモ極メテ満足スル者ナリ客人既ニ灌嗽シタラハ飲食ヲ齎シ来スヘシ

諸テ夜ニ入ラハ某君

旅客名

ハ旅途ノ疲アラン故

ニ吾人モ早ク卧床ニ就クヘシトテ早ク客ヲ臥サシメ又翌朝朝食ノ間ニ客間ヲ掃除シ室内ヲシテ齊整ナラシムヘシ若シ人少ナラハ朝食後直チニ掃除スヘシ○又丁寧反覆シテ内政ニ告ク客人ヲシテ已カ来レル爲メニ家内ノ煩勞ヲ増シ氣ノ毒ノ事ヲ爲シタリキト賓客ニ心配ヲ生セシメサル様注意スヘシ又客来中ニ金錢ヲ取扱フニハ格別ニ隱密ナルヲ要ス凡ッ賓客ハ糲飯麩酒ヲ吃スルモ家内ヲ煩勞セシメ且ツ費

用多カラレメテ以テ珍膳美酒ヲ吃スルヨリ遙
カニ怡悦スル者ナリ

經濟 家政要旨卷之上 終

小學

經濟 家政要旨卷之上 字引

第一章

職掌

○健康

○爽快

○性質

○幸福

配意

○接遇

○劣友

○性質

○濃厚

司

○慈善

○主婦

○濃厚

○

夫人

○慈親

○疎

○結構

○廉價

○嗜不嗜

○斟酌

○糲飯

○風

豚

○紡績組織

○瘰癧

腺病

第二章

第三章

規則

○順序

○鄭重

○管

○料簡

○待遇

○不平

○親睦

○決斷ハキトキ ○巧利テギハ ○章程リキマ ○交際カウサイ

○理會ウライ ○勤惰ツットノ ○冗費ムダツ ○查察サツギ ○炊スチ

婢ヒメ ○破綻ヤブレホ ○斑汚ハシラ ○家具カグ ○割ワツ

烹ハウ ○放縱キマ ○督責トクセキ ○想像サウゾウ ○錯サク

○普通フツウ ○殘酷ザンコク ○澁滯シヤクシツ ○弱質ヨハキ ○錯サク

裁縫サイホウ ○快譚クワイタン ○激怒ゲキド ○打撲ウチタ ○

放恣ハウジ ○淫祠浮鬼ヨカミ ○傳染デンセン ○壞敗クワイバイ ○

○迷夢メイム ○感冒カンバウ ○傳染デンセン ○徵候チョウコウ ○

第四章 體裁タイサイ ○位置チシ ○亂雜ランザツ ○呵責カセキ ○

○從事ジツ ○舉家キョカ ○廟堂ビョウドウ ○豪富ゴウフ ○

愠色ウニョク ○光景クワイケイ ○未熟メイジュク ○失調シツテウ ○同視ドウシ

○厨婢チウヒ ○浪費ライウ ○石礮セキゲン ○破裂磨ハレツマ

耗コウ ○裨補ヒボ ○全工ゼンコウ ○備忘錄ビョウロク ○

第五章 熨斗ウツ ○一塊イツクワイ ○摩擦マサツ ○染料ゼンリョウ

○沸湯フツ ○射注シャチウ ○精緻セイセイ ○揉洗ジウシ ○

○日乾ニツカン ○風乾フウカン ○血温ケツオン ○瀝布ロクフ ○塗敷トシク

○攪和カワカ ○豆大トウダイ ○陰乾インカン ○微温湯ワイオンヌル

○放置ハクチ ○卵黃ランワウ ○陰乾インカン ○微温湯ワイオンヌル

○收縮シュウシュク ○穀膠コクコウ ○染工ゼンコウ ○

第六章 招待セウタイ ○煩勞疲憊ハンラウヒビ ○珍羞チンシウ

ノキモ

○喧鬧器々

クチヤカマシク
サハギマハル

○既備品

アリ
○兀然

○自足自樂

コレニテヨシト
マンゾクスル

○日常

○鬱氣

○安逸

○素飯

シスメ

○齊整

カタツキ
タル良

○丁寧反覆

クリカ
ヘス

經濟
小學

家政要旨卷之上字引終

